

# 東部環状線の交通安全対策と無形文化財について

洪谷理津子 議員

**質問** 東部環状線が暫定2車線で開通しましたが、計画決定から供用までどのように整備していくのですか。

**答** 東部環状線は、平成7年に都市計画決定され、全体の64・3%が2車線での供用を開始しています。今後は、2車線の暫定形での供用を順次進め、4車線

化については、実現に向けて調整してまいります。  
**質問** 交差点の状況をどのように認識していますか。

**答** 完成時には中央分離帯が設置され、横断できる交差点は5か所となりますが、現在、南北に通行する機能は従来通りのため、安全対策として、農道などは

一時停止の注意喚起看板を設置しています。

**質問** 信号機設置について署名活動が行われましたが、この状況をどのように受けとめていますか。

**答** 二千名を超える方の信号機設置要望が5月下旬に館林警察署へ提出されました。市としても、農業試験場南の交差部及び山王赤生田線の交差部には信号機が設置されるよう警察に働きかけを行ってまいります。

**質問** 環状線には、第三小

学校と第二中学校の通学路が横断しており、四ツ谷町から三小へ向かう通学路は、カントリーエレベーター北に変更されましたが、横断する児童生徒への安全対策はどのように行っていますか。

**答** 教員による通学路巡回やPTAによるパトロールを実施しています。

**要望** 開通した2・1kmの区間には安全に横断できる交差点が1か所ありません。信号機を設置し、安全に横断できるように要望します。

**質問** 本市の無形民俗文化財は、大島岡里神代神楽と上三林のささらのみで、技能保持者も減少しています。今後、八木節等を含む伝統芸能の継承・育成にどう取り組んでいきますか。

**答** 青少年活動や入門教室等を通して後継者の育成に努めるとともに、県等の補助金制度を活用しながら、民俗芸能の継承団体と地域が連携を図り、地域に欠かせない行事として存続できるように支援してまいります。

# 食品ロスに対する現状と今後の対策について

向井 誠 議員

食品ロスの現状は

**質問** 世界全体の食糧援助320万tに対し、日本ではその倍の量が食品ロスとなり、国民一人当たり一日御飯茶碗一杯分の139gが捨てられているが、本市での現状は。

**答** まだ食べられるのに廃棄されてしまう食品を正

確に把握できませんが、食品ロスの多くが生ごみの中に含まれることを勘案すると、本市のごみの総量の約20%を占める生ごみが多くの家庭から排出されています。

30・10運動について

**質問** 宴会での食品ロスが多く出ているようだが、最初の30分間は席を立たず料

理を楽しみ、お開きの10分前には自席に戻って、再度料理を楽しむという、食品ロスを少なくする運動を推進していく考えは。

**答** この運動は、国や群馬県が推進する中、本市においてもホームページや広報紙等で周知を図っており、過日開催の廃棄物減量等推進員大会においても、市長がPRをするなど、引き続き推進する考えです。

**質問** 家庭での食品ロス対策

策としてのフードバンク・フードドライブの推進は。

**答** フードバンクにつきましては、高根町にNPO法人がありますが、本市としましては、家庭での食品ロスの取組について、先進地の事例を参考にしながら、さらに検討してまいります。一般市民向けのフードドライブにつきましては、市のイベント等で開催できないかなど、行政版フードドライブについて検討したいと考えております。

子どもたちへの環境教育

**質問** 松本市では、幼稚園・保育園や小学校において、環境教育として食品ロスの授業を行っているが、本市で推進していく考えは。

**答** 松本市では参加型環境教育、継続的な意識啓発、保護者へのアンケートという流れの中で環境教育を実施しており、大変参考になるものと考えております。今後は家庭との連携を図りながら食品ロスについて取り組んでまいりたいと思います。